

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		6/24~7/1	7/1~7/8	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.160	0.120
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.063	0.053
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.033
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.160	0.150
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.036	0.021
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.032	0.021
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	0.021
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.064	0.061

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		6/24~7/1	7/1~7/8	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.026	0.360
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.023

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

南相馬市内の大気浮遊じん中のセシウム137濃度は平均0.07mBq/m³で、最近の国や県の測定値(平均0.05mBq/m³と)と同等に低い濃度であり、大気浮遊じんを介した健康影響については心配不要です。

ところで大気浮遊じんとは何かをご存知でしょうか？大気浮遊じんとは、国の規制では粒径10μm以下の大気浮遊物をいいます。この粒子は長時間浮遊し、呼吸とともに体内に取り込まれ、気道又は肺胞に沈着します。最近、硫黄酸化物(SO_x)等のガス状大気汚染物質の粒子化したものが、粒径2.5μm以下の「PM2.5」として注目されています。PM2.5は呼吸器系の奥深くまで入りやすく、放射性物質やウイルスは、こうした浮遊粒子に付着して体内へ取り込まれ、人の健康に重篤な影響を及ぼすことがあるため、注意が必要です。